

科目名		現代社会論特殊講義Ⅰ	
担当教員	江藤俊昭	科目区分	選択科目
開講区分	前期	単位数	2単位
曜日時限	水曜・1時限	開講年次	1年
到達目標	<p>現代社会は、大きな転換点にある。グローバル化、情報化といった用語は単に傾向を表現するものではなく、現実となっている。同時に、現実はいずれに新たな意味を付与するようになっていく。また、日本をはじめいくつかの国においては、少子高齢化の進展に伴う人口減少が地方の衰退、国力の衰退を招く時代にもなっている。</p> <p>こうした現代社会の動向を総合的に確認することを目的としている。同時に、現代社会の動向だけではなく、現代社会を見る方法論についても確認したい。公共政策専攻で研究を目指している大学院院生にとって重要な科目である。</p>		
授業概要	<p>日本を中心に現代社会を多角的に考え、今後の社会のあり方について学ぶ。トピックは、授業計画にあるとおり、広範囲に行う。テキストを事前に読み、それをもとに講義した後で、その内容について討議する。2回で1テーマを扱う。最終日にはレポートを提出する。</p>		
授業計画			
回数	内容		
第1回	現代社会論とは何か（「現代社会」とは何か——その歴史的区分、「現代社会論」とは何か、「現代社会論」の意図・目的・方法論）		
第2回	行政と公務員の動向Ⅰ（日本の公務員：採用・昇進、行政と社会との関係）		
第3回	行政と公務員の動向Ⅱ（公務員の国際比較、行政と公務員への政策的対応：課題と方向性）		
第4回	自治と市民Ⅰ（自治と市民をめぐる社会論の変容、住民投票）		
第5回	自治と市民Ⅱ（自治と市民への政策的対応：課題と方向性）		
第6回	産業と雇用Ⅰ（日本的雇用慣行とその変容、周縁労働者の増加）		
第7回	産業と雇用Ⅱ（産業と雇用への政策的対応：課題と方向性）		
第8回	地域とコミュニティⅠ（コミュニティ拠点研究の系譜、共同性の基盤となるコミュニティ拠点）		
第9回	地域とコミュニティⅡ（地域とコミュニティ拠点への政策的対応：課題と方向性）		
第10回	若者と現代文化Ⅰ（若者論の課題、若者文化の現在）		
第11回	若者と現代文化Ⅱ（若者と現代文化への政策的対応：課題と方向性）		
第12回	学歴社会と生涯学習Ⅰ（学歴の社会的意味、学歴の功罪）		
第13回	学歴社会と生涯学習Ⅱ（学歴社会と生涯学習への政策的対応：課題と方向性）		
第14回	現代社会論特殊講義を踏まえて各自のテーマ報告とその論評Ⅰ		
第15回	現代社会論特殊講義を踏まえて各自のテーマ報告とその論評Ⅱ		
準備学習等（課題・予習・復習・調査等）	テキストを事前に読み、それをもとに講義した後で、その内容について討議する。2回で1テーマを扱う。		
評価方法・基準・講評の方法	<p>報告とレジュメ（40点）、レポート提出（60点）によって評価する。</p> <p>講評は、個別にメールで対応する。</p> <p>なお、レポート・テーマは、授業で議論して興味を持ったものとする。4000字程度とする。</p>		
テキスト・参考書	<p>松野弘編『現代社会論』ミネルヴァ書房、2017年。</p> <p>参考文献は、その都度指示する。</p>		
前年度の授業をふまえた今年度の授業方針	<p>授業アンケートによれば、授業での教材や講義、その後の討議について問題はなく（充実）、基本的に踏襲する。なお、講義途中でも要望があれば授業方針を変更する場合もある。</p>		
学生へのメッセージ	<p>テキストの該当箇所を事前に読み、論点を明確にしておくこと。</p>		
授業に参考となるサイト	<p>各省のHP参照。</p>		

関連する画像	
その他・備考	